



国土交通省では、人口減少を迎えているなか、働き手の減少を上回る生産性の向上と、担い手確保を進めるため、平成28年度より建設現場におけるi-Constructionの普及推進に取り組んでいます。

北陸地方整備局においても3本柱である「ICTの全面的な活用」、「全体最適の導入（コンクリート工の規格の標準化）」、「施工時期の平準化」を推進し、建設現場におけるプロセス全体の最適化を図り、魅力ある建設現場の実現を目指していきます。

本号の掲載内容

全 般

- ・北陸地方整備局における令和3年度i-Construction実施方針を決定
- ・北陸地方整備局インフラDX推進本部を設置

北陸地方整備局における令和3年度i-Construction実施方針を決定

北陸地方整備局では、令和3年6月28日(月)にi-Construction推進本部会議を開催し、R3年度の実施方針を決定しました。

令和3年度の新たな取り組み

①ICT活用工事(土工)の対象土量拡大

②ICT普及促進型工事(試行)

ICT土工の測量から納品までの3次元データを活用する一連技術を、実際のICT活用工事現場をフィールドに実技講習するモデル工事を試行。ICT未経験の工事業者や自治体職員を対象とし、北陸全体でICT技術者の育成拡大を図る。

③ICT人材育成推進企業認定(試行)

ICT活用工事現場をフィールドに受注者自らが自社職員(下請企業含む)のスキルアップのための講習会を開催した企業を認定する制度を創設。

④遠隔臨場監督検査(試行)

原則全ての工事で遠隔臨場の試行を継続。また、本官工事及び各主任監督員工事で1件程度を対象に、Webを活用した検査(対象は中間技術検査とするが、完成検査は受発注者協議による)の試行を実施。

⑤BIM/CIM 対象の拡大

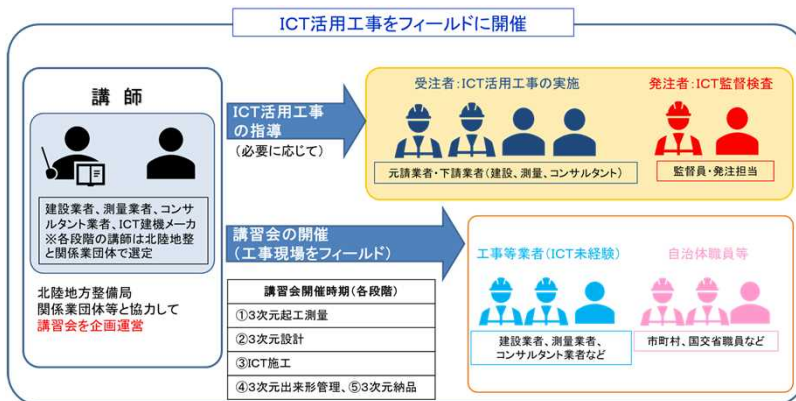
R5年度までに小規模を除く全ての公共工事でBIM/CIM原則適用に向けて、R3年度から橋梁、トンネル、河川構造物(樋門・樋管)、ダム等の大規模構造物詳細設計においてBIM/CIMを原則適用。また、大規模構造物以外や概略設計、予備設計においてもBIM/CIMの導入を積極的に推進。

⑥コンクリート工の規格の標準化

プレキャスト製品の適用拡大を図るため、評価指標及び配点案を標準化し、設計時の総合評価手法を北陸地整が全国に先駆けて試験的に運用。新たな評価指標と配点案を用いて、プレキャスト製品の適用検討、試行工事を実施し、将来的な「PC一括採用試行工事」に向けた検証を実施。



推進本部会議開催状況



ICT普及促進型工事(試行)の概要

北陸地方整備局インフラDX推進本部を設置

令和3年10月4日(月)に北陸地方整備局長を本部長とする「北陸地方整備局インフラDX推進本部」を設置し、「第1回北陸地方整備局インフラDX推進本部会議」を開催しました。

インフラ分野におけるデータやデジタル技術を積極的に導入・活用することにより、北陸地方整備局が所掌する行政手続きの利便性の向上、災害対応の迅速化・高度化、安全で快適な労働環境の実現による働き方改革、等の実現を目的に具体的な取組について検討を進めます。

検討にあたっては、推進本部内に専門の事項を検討する9部会を設置し、具体的な施策を立案・実現することにより、整備局全体のインフラDXを推進します。

北陸地方整備局インフラDX推進本部 主な検討事項

- ①行政手続きの利便性を向上する施策の検討
- ②災害対応の迅速化・高度化に向けた施策の検討
- ③安全で快適な労働環境の実現に向けた施策の検討
- ④生産性向上による建設業界の活性化に向けた施策の検討
- ⑤カーボンフリー・持続可能型社会の実現に向けた施策の検討
- ⑥DX推進の推進のための人材育成の検討
- ⑦その他、国民・業界・職員のための施策の検討



推進本部会議開催状況

北陸地方整備局インフラDX推進本部

【本部長】局長 【副本部長】次長
【本部員】総務部長、企画部長、建政部長、河川部長、
道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長、
防災統括官、企画調査官

()は部会長

総務部会(総務部長)

企画部会(企画部長)

建政部会(建政部長)

河川部会(河川部長)

道路部会(道路部長)

港湾空港部会(港湾空港部長)

営繕部会(営繕部長)

用地部会(用地部長)

人材育成支援部会(企画調査官)

北陸地方整備局インフラDXの推進体制

i-Construction推進本部 事務局

(問い合わせ先) 北陸地方整備局 企画部 技術管理課長 (3311)

企画部 施工企画課長 (3451)

〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲合同庁舎1号館 TEL025-280-8880(代)

北陸地方整備局インフラDX推進本部の位置づけ

参考

北陸地方整備局 業務改善推進委員会(既設)

【主宰】局長
目的：北陸地方整備局における業務の効率化、適正化等業務改善を推進

連携

北陸地方整備局インフラDX推進本部

【本部長】局長 【副本部長】次長
目的：各部の所掌業務の生産性向上させる具体的なDXの施策検討

- 総務部会
- 企画部会
- 建政部会
- 河川部会
- 道路部会
- 港湾空港部会
- 営繕部会
- 用地部会
- 人材育成支援部会

北陸インフラDX人材育成センター(北技)

業界との意見交換会

新技術評価会議

総合評価委員会

連携

連携

北陸地方整備局 i-Construction推進本部(既設)

【本部長】局長
目的：i-Construction、BIM/CIM、遠隔臨場の現場導入と地方公共団体・業団体への普及促進、活動の方針を検討

■ICT技術の全面的な活用

BIM/CIMの推進、遠隔臨場の推進

北陸ICT戦略推進委員会(委員会・研究会)

企画部長、河川・道路情報管理官、北技所長、新潟・富山・石川県、新潟市、3県建協、日建連、道建協、建コン協、機械関係協会

i-Constructionモデル事務所

i-Constructionサポート事務所

■規格の標準化

土木コンクリート製品評価委員会(委員会・小委員会)

技術調整管理官、北技所長、新潟・富山・石川県、新潟市、3県建協、建コン協、CO協会

■施工時期の平準化

北陸ブロック発注者協議会(委員会・幹事会)

局長、北信越運輸局、大阪航空局、北陸農政局、第9管海保、関東森林、北陸財務、金沢国税、信越自然環境、新潟・富山・石川県、主要市町村、NEXCO、鉄建機構

北陸地方整備局インフラDX推進本部 各部会の取組(案)

参考

北陸地方整備局インフラDX推進本部

【本部長】局長 【副本部長】次長

・DXの推進により、各部の所掌する業務の生産性を向上させる具体的な施策について検討する。

総務部会

・RPA活用による業務効率化 ・在宅勤務、遠隔等による新たな働き方
・公文書電子管理、システム化等による業務効率化

企画部会

・遠隔臨場による監督検査業務の効率化 ・公共工事プロセスデータ一元化 ・機械設備の不具合復旧の効率化 ・施設点検の効率化、省力化、安全化 ・TEC-FORCE活動の高度化

建政部会

・行政手続等のデジタル化、オンライン化 ・スマートシティの推進 ・丘陵公園維持管理効率化
・まちづくりDXの推進 ・下水道維持管理効率化 ・住宅建築分野のDX

河川部会

・施設点検管理の高度化 ・流量観測の無人化、省力化 ・工事の効率化(BIM/CIM、ICT)
・砂防工事の高度化(無人化) ・施工管理、安全対策の高度化 ・水位予測情報の高度化

道路部会

・ICT除雪機械の自動化による省力化、安全性、品質の向上
・AI技術活用による管理の効率化

港湾空港部会

・サイバーポートによる利便性、生産性向上 ・港湾整備BIM/CIMクラウドの構築
・港湾施設被災状況把握の高度化、迅速化

営繕部会

・BIM活用による設計、施工の効率化、生産性向上

用地部会

・現地映像活用による用地測量調査の安全性の向上、効率化

人材育成支援部会

・DX、BIM/CIM、ICTの推進に必要な効率的な人材育成
・育成対象は北陸地整職員のみならず、地公体・建設業界まで広く検討する。
※「北陸インフラDX人材育成センター」の設置に向けた検討を進める。

北陸インフラDX人材育成センター
(北陸技術事務所)

・ICT、BIM/CIM、DXの推進に不可欠な人材育成機関として、設置を目指す。
・北陸地整、地公体、建設業界の職員を対象に、ハード・ソフトの両面を教育できる施設とする。
・運用については、地公体・建設業界と連携し、柔軟に展開する。